



開会挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長

島谷 克義

本日は第19回ヘルスリサーチフォーラム及び平成24年度研究助成金贈呈式にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃は当財団の事業活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当財団は平成4年（1992年）に厚生労働省のご支援のもとに、ファイザー製薬株式会社の拠出を受けて、日本におけるヘルスリサーチの振興を目的とした財団法人として設立されました。また、一昨年、平成22年には事業活動の公益性が内閣府から認められ、公益財団法人として新たなスタートを切っております。

平成4年以来、現在までの助成件数は、本年度を含めると合計で675件、助成金の総額は16億5千万円になりました。改めて、助成活動にご協力をいただいた関係各位、主たる出捐企業であるファイザー株式会社並びにご寄付をいただいておりますその他の団体・個人の皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、本日の会は、例年と同様に2部の構成になっております。

第1部が第19回ヘルスリサーチフォーラムです。今年度のフォーラムは「社会をつなぐヘルスリサーチ」をテーマにして、平成22年度に助成を受けた研究の成果38題に、平成24年度（本年度）の一般公募演題3題を加えて、合計41題を発表していただくことになります。活発な議論をしていきたいと思っております。

今回は演題の数が非常に多くなりました。そのうちの23題を、朝の開始時間を少し早めて10時半からスタートさせていただいております。3つの会場に分かれてポスターセッションとしてご発表いただき、活発な議論を重ねていただきました。大変多くの参加者にポスターセッションにお見えいただきました。そして、活発な議論を重ねていただきましたこと、主催者として大変嬉しい限りです。御礼を申し上げます。

また、この後には残りの18題が、このメイン会場で3つのセッションに分かれて発表される予定になっております。午前に引き続き、このメイン会場でも活発な議論がなされるものと期待しております。よろしくお願い申し上げます。

第2部は平成24年度研究助成の選考結果発表と贈呈式を行います。選考委員長の永井良三先生から後ほど詳しくご発表いただきますが、本年度は226件のご応募をいただき、そのうちの31件が採択され、合計で4,525万円の助成を受けることが決定しております。選考委員の先生方には、今年も大変厳しいスケジュールにもかかわらず熱心な討議を重ねていただき、数多くの応募案件の中から本財団の助成にふさわしい研究を厳選していただきましたことを、改めて御礼申し上げます。また、採択された研究者の皆様には心よりお祝いを申し上げますとともに、ご研究の成功をお祈りいたしております。

この贈呈式では、ご来賓として、財団活動のご後援をいただいております厚生労働省大臣官房厚生科学課長 福島 靖正 様から、また協賛をいただいております医療経済研究機構副所長の岡部 陽二 様から、そして出捐企業のファイザー株式会社代表取締役社長 梅田 一郎 様から、それぞれご挨拶をいただくことになっております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、贈呈式の後には情報交換会も予定しておりますので、どうぞ皆様奮ってご参加をいただきますようお願ひ申し上げます。

さて、今年は京都大学の山中 伸弥 教授がノーベル医学生理学賞を受賞されたことで、日本中が喜び、その素晴らしい結果に沸き返りました。マスメディアもiPS細胞の素晴らしさや再生医療等の可能性の大きさを盛んに報じております。しかし、私にとりましては、この興奮の中で、山中教授が常に「これはまだ始まりであり、これからが重要なのだ。これからが難しいのだ。この技術が、医療として、治療として、実際の患者さんに役立つ日が一日も早く来るよう努力することが必要だ」と、繰り返し述べておられることが、大変印象的です。

当財団の設立の主旨は、「医学研究の成果はそれを必要としている患者さんに届いていかなければならない。ヘルスリサーチとして、医学、薬学、看護学のみならず、経済・社会・法律・倫理等、幅広い学問を総動員して、この課題に取り組んでいく活動を広めていく必要がある」ということです。

患者さんの役に立つ学問の振興という我々の共通の目的の下に、本日の会で発表される研究、活発な議論、それらから導き出される結果や成果が将来の患者さんのためになり、医療の発展に寄与することを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。